『昼下がりの書庫にて』

梅花空木

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
『昼下がりの書庫にて』

【Ｎコード】
Ｎ８４２３Ｈ

【作者名】
梅花空木

【あらすじ】
普賢の見習い、普賢の家の書庫で読書をしたいと訪ねてきた大公望。その彼を普賢は快く迎える。すると…。

「ふげーん！いるかぁ？」太公望がノックをしながら訊ねると、しばらくしてドアが開く。
「望ちゃん。今日はどうしたの？お茶でも出そうか？」普賢は机の本をテキパキと片づけ出す。
「おぬしは、本当に真面目だのう。」見ると難しそうな物理学やらの本が山積みになっている。
「そんなことないよ。それにまだまだ僕だって知らないことばかりなんだよ？そういうのを知っていくのがすごく楽しいんだ。」普賢が幸せそうに微笑む。
「今日は、わしもおぬしに習って読書をしようと思ってな。書庫をかりてもいいか？」
「うん！大歓迎だよ。」

「望ちゃん？そろそろ休憩しよ？」書庫をノックしてから入る。書庫の中では太公望が窓のところに腰かけるようにしてうたた寝をしていた。木漏れ日の中、気持ち良さそうに眠る彼を普賢はとても愛おしそうに見つめる。
（…触れたい。でも…。）自然と考えたことに首を振ってから、
「望ちゃん？起きて。お茶にしない？」優しく呼びかける。
「…ん…んぁ？普賢？」寝ぼけまなこな彼も愛しい。
「読書してるうちに寝ちゃったんだね。ほら休憩しよう？」言いながら笑いかける。
「慣れぬことはするもんじゃないのぅ。」太公望が照れ臭そうに笑う。
「でも、たまには読書もいいでしょ？」お茶を注ぎながら普賢が問う。

「うむ。確かにおだやかな気持ちになるな！」
「またいつでも読書しにきてよ。待ってるから。」
「わかった。おぬしには世話になってばかりで悪いな。」すまなそうな顔で太公望が言う。
「平気だから気にしないで？」笑顔で言う。
（君に会える口実ができて僕は嬉しいんだよ。）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8423h/

『昼下がりの書庫にて』

2010年10月15日21時10分発行